

最近の教育をめぐるトピックス

(キャリア教育)

インターンシップに参加する高校生の割合が過去最高

平成15年度に始まった高校生インターンシップ推進事業では、地元企業を中心にインターンシップの取組を進めており、参加生徒の割合は開始時の37.1%から年々上昇し、平成29年度は61.2%と過去最高となった。

(学力関連)

新学習指導要領の全面実施に向けた移行期間

小学校3・4年生の「外国語活動」、5・6年生の「外国語科」の新設、「道徳」の特別の教科化、プログラミング学習の実施などの内容を含む新学習指導要領が、小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から全面実施。今年度は移行期間に当たる。

新しい高等学校学習指導要領の告示

平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、今年の3月に高等学校の教育課程の基準の改善や、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現、カリキュラム・マネジメントの確立等に向けて新しい学習指導要領が告示された。

難関大学合格者にみる高校生の健闘

医学部医学科進学者が現浪合わせて50人となり、8年連続で50人以上の進学者となった。東京大学には現浪合わせて13名が合格し、過去5年間で2番目に多い合格者数となった。

(就学前教育・保育)

わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラムを、今秋、大館市で開催予定

就学前教育・保育の質の向上を図るために、各施設等を巡回して指導・助言等を行う教育・保育アドバイザーを大館市・男鹿市・横手市に各2人配置して3年目となった今年度、10月11日・12日の両日、その成果を全国に発信するフォーラムを大館市で文部科学省との共催により開催する予定。

(特別支援教育)

交流及び共同学習の推進

特別支援学校において、障害のある子どもと障害のない子どもとの交流及び共同学習が全県的に推進されている。平成29年度は、幼稚園・保育所・認定こども園等・小中学校・高校で223回、出身地域の居住地校で227回実施された。また、地域貢献を目的とした交流及び共同学習は367回、地域の行事や地域の団体との交流及び共同学習は546回実施された。

高等学校における通級による指導

平成30年度に高等学校の通級による指導が制度化され、本県においても、秋田明德館高等学校1校において実施されている。本県の実情に応じた高等学校の通級指導教室の計画や運営、効果的な指導・支援の方法の確立等を推進する。

(科学技術人材の育成)

新たな科学技術振興指針を策定

本県の課題解決と社会変化への対応に、科学技術が効果的に貢献するための方向性を示した「あきた科学技術振興ビジョン2.0」を策定。小・中学校、高等学校における人材育成のメソッドとして、理系・文系の枠を超えたICT教育の促進・支援を新たに加えたほか、社会との関わりや職業イメージを持って学習に取り組む意識づくりを促進する。

(グローバル人材の育成)

中学生・高校生の英検取得率が全国トップクラスに

平成29年度英語教育実施状況調査において、中学校3年生の英検3級以上取得割合が39.2%で全国2位、高校3年生の英検準2級以上取得割合が29.4%全国1位となった。今後も英語学習に対する生徒の意識・意欲を高めながら取得率の向上を図る。

(健やかな体の育成)

秋田県の子どもの体力・運動能力は良好

スポーツ庁は、平成30年2月に「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を公表した。調査対象である小学校5年生、中学校2年生の本県の体力・運動能力は全国の平均値より高い状況を維持した。また、運動習慣等調査では、運動やスポーツをすることは「好き」と答えた児童生徒の割合も全国の平均値より高かった。

がん教育の推進

文部科学省は、平成29年度からがん教育を全国展開すると宣言した。それを受け、学校におけるがん教育を推進するため、平成29年度には教員の資質向上を図る研修会を実施するとともに、県内の中・高等学校10校におけるがん教室の実施を支援し、平成30年度も継続することとしている。

(教育環境)

秋田の教育を支える教員の優れた指導力の継承

ベテラン教員の大量退職と若手教員の増加が始まっていることから、本県教員の優れた指導力を確実に継承できるよう、「教科指導CTの活用による指導力向上プロジェクト」を通じた実践的な研修の充実と、「学力向上フォーラム」を通じた各学校の工夫した取組の共有を図る。

教員の働き方改革

質の高い教育を実現するため、教職員の長時間労働の短縮を進めており、退校時間、学校閉庁日等の設定の他、スクール・サポート・スタッフ等を配置している。

非構造部材の耐震化

文部科学省では、建物（構造体）の耐震化に比べ遅れている、体育館等の天井材や照明器具などの「非構造部材」についても、落下防止対策等の耐震対策を早期に完了するよう推進している。県立学校においては、建築基準法が規定する特定天井（高さ6 m超かつ面積200 m²超の吊り天井）の改修工事を完了し、特定天井を除くその他天井（高さ6 m超または面積200 m²超の吊り天井）の改修工事を平成29年度から着手している。

学校施設の防災機能強化

文部科学省は、多くの学校施設が災害時の地域避難所に指定されていることから、避難経路の確保や備蓄倉庫、屋外トイレ、自家発電設備の整備等を進めるよう要請している。県立学校においては、避難所となり、かつ建築年が比較的新しい学校を中心に、太陽光発電設備及び蓄電池を、平成29年度までに29校に設置した。市町村立学校においても、順次防災機能の強化が図られている。

老朽校舎の長寿命化

学校施設については、築40年程度をめどに新しく建て替えるのが一般的であるが、限られた予算の中で効率的・効果的に老朽化対策を進めるため、施設の長寿命化に向けた取組についても計画的に進めるよう文部科学省では推進している。県では、平成28年3月に「あきた公共施設等総合管理計画」を策定し、その中で県立学校においては、新耐震基準に適合している建物における長寿命化対策を予定している。

（学校と地域の連携）

県立学校におけるコミュニティスクールの導入

平成29年3月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正において、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、地域と一体となって特色ある学校づくりが進められる学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入が努力義務になったことに伴い、県立学校においても、本年4月から矢島高等学校、ゆり支援学校で導入するとともに、大曲工業高等学校、六郷高等学校においても導入に向けた取組を推進している。

(学校安全)

学校安全教育の充実

国から平成30年3月に示された第3期教育振興基本計画についての答申の趣旨を踏まえ、県においても児童生徒等を取り巻く多様な危険を的確に捉え、児童生徒等の発達段階や学校段階、地域特性に応じた質の高い学校安全の取組を、家庭、地域関係機関等とも連携・協働しながら、全ての学校での推進を図ることとしている。

(高等教育関連)

県立大学に新3学科誕生

システム科学技術学部ではこれまでの機械知能システム学科と電子情報システム学科の2学科を再編し、平成30年度から機械工学科、知能メカトロニクス学科、情報工学科の3学科を設置し、164名の入学生を迎えた。教育・研究システムの再構築により、工業分野における産業構造の変化に対応するとともに、航空機をはじめとする輸送機関連や新エネルギー、ICTの分野における専門人材を育成し、秋田の産業振興、地方創生を目指す。

(障害者の生涯学習)

障害者の多様な学習活動を支援する取組の推進

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を養い、共生社会の実現に向けた取組を推進することが求められていることから、学校から社会への移行期における生涯学習プログラムや実施体制、関係機関・団体等との連携の在り方に関する調査・研究事業を実施し、障害者の多様な学習活動を総合的に支援していく。

(読書活動)

住民の身近な施設への「図書コーナー」設置を支援

平成29年度に、いわゆる「企業版ふるさと納税制度」を活用して、市町村との協働による「読書活動推進パートナー支援事業」をスタートさせた。この事業は、スーパーや病院など、住民が利用しやすい場所に図書コーナーを設置する市町村に対し、書庫や書籍の購入費など、初期費用に助成するものである。平成29年度は、5市町8箇所を実施し、平成30年度は8市町村への助成を見込んでいる。まちづくりなど、市町村の抱える課題解決につながる視点を加え、民間団体をパートナーとして、住民が身近な施設で本に親しめる環境づくりにつなげていく。

トップアスリート等による読書啓発の動画を作成・配信

「読書が好きだ」と答える県民の割合は増加しているが、1日30分以上読書をしている人の割合は落ち込んでおり、特に20歳代の落ち込みが大きい。こうしたことから、若年層を中心とした県民の読書意欲の喚起に向けて、平成30年度は、県民の注目度の高い県内企業で活躍するトップアスリート等による読書啓発の動画を作成する。県のウェブサイトへの掲載やSNSでの発信のほか、アスリートの所属チームからも発信していただくこととしている。

(文化遺産)

縄文遺跡群世界遺産登録の推薦について

文化審議会世界文化遺産部会は、平成30年度のユネスコへの推薦について夏頃決定する方針を示した。「北海道・北東北の縄文遺跡群」、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」のいずれかに決定される見込みである。本年、4月には国会議員連盟とともに総決起大会を開催し、4道県の知事等から内閣官房長官、文部科学大臣及び文化庁長官に推薦決定に向けた要望書を提出した。

重要文化財天徳寺の保存修理について

秋田藩主佐竹氏の菩提寺で重要文化財である天徳寺は、本堂が貞享4年（1687）、書院が文化3年（1806）の建立である。平成27年度に、建立以来初めてとなる解体を伴う根本修理が始まった。平成30年度は、本堂と開山堂の解体及び部材調査が行われている。今後、調査結果に基づいて工事計画を見直した後、組立て・復旧工事が行われる予定である。

ユネスコ無形文化遺産について

「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」は、平成30年秋に提案書が審議され、ユネスコ無形文化遺産に登録される見込みである。本県所在の重要無形民俗文化財としては5件目の登録となる予定である。